

重大な事故防止に向けた安全対策

【 2 軟式野球 】

1 競技特性

野球競技における頭部外傷事故の特徴として死亡事故以外に頭部に打球や送球を受けた重大事故がかなりの件数に上がっており、その8割近くが練習中に発生している。事故のすべてが報告されているわけではないが事故概要を打球、投球、送球、部員同士の衝突などによる事故が要因となっている。こうした事故を防止するために、是非練習方法の工夫や保護防具の正しい使用、防護ネットの活用を是非心がけてほしい。なお留意事項には、防護策として必要なネット類の活用については経費の面で負担を強いられる面もあるが、十分な防護策が講じられない場合は、複数箇所での打撃練習は行わないなど、より一層留意が必要ということになる。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
○ 打撃練習中の事故 ・ 投手の前、あるいは左右に置いたネットの端に打球が当たって方向が急に変わって顔面に当たる事故 ・ 打者が打ったボールが投手の顔面に当たる事故 ・ マシンのボールを打ち出すネットの穴から打球が飛び込み、補給者に当たる事故	・ 骨折(顔面・頭蓋骨) ・ 視力低下 ・ 頭部打撲 ・ 骨折(顔面・頭蓋骨) ・ 視力低下 ・ 頭部打撲 ・ 骨折(顔面・頭蓋骨) ・ 視力低下 ・ 頭部打撲	・ 横幅の広いネットを設置できればベストだが、ネットを余り近づけないよう、適当な距離を工夫すること。打球のネットからの跳ね返り事故防止に有効な改良型防護ネットも市販されている。 ・ 打撃投手は必ず打撃投手用ヘッドギアを正しく固定し、装着すること。打者用ヘルメットを代用すると投球時にずれたり、脱げてしまうこともあり投手は必ず投手用を着用すること。 ・ マシンの始動時の調整は必ず複数の部員で行い、打ち出される方向に部員がいなかったり十分に確認すること。マシンの調整時に捕手が受ける場合は、必ずマスクなどすべての防具を装着してから行うこと。マシンの補給者防護用ネットを設置するか、捕手用ヘルメットとマスクを装着してボールを補給すること。

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
・ 注意力の欠如による事故 ・ 個々の体力や技量を越えた練習による事故	・ 骨折(顔面・頭蓋骨) ・ 視力低下 ・ 頭部打撲 ・ 骨折、打撲他	・ 入学後9月までの1年生の負傷者が多く、それは、1年生が練習の中でどのような役割、動きをするのかが十分理解されていないことによるものと思われるが、むしろファールボールの処理や用具の片づけに注意が行き、次の打球が飛んでくることに気がつかず事故が発生している。 ・ 守備練習で打球を処理してからの送球先を十分声かけをして行うこと。誤った送球先で重大事故につながることもある。送球先が変わることがあることも十分理解して守備つくこと。 ・ 前項の1年生の事故発生要因に加え、部員の体力や技量にあった練習方法を心がけること。プロ野球や大学・社会人などの練習方法で、参考にするのは良いが、体力や技量にあった練習方法を採用することが大切である。

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 練習内容の周知と理解不足による事故 打球の同時処理による衝突事故 イレギュラーバウンドによる事故 	<ul style="list-style-type: none"> 骨折、打撲他 骨折、打撲他 骨折、打撲他 	<ul style="list-style-type: none"> 打球を処理してから次のプレイがどのように行われるか周知されずに起こる事故がある。例えばダブルプレイの練習で、気付かず1塁に直接送球してしまうケースなど。同じくダブルプレイの練習で他の内野手から送球を受け1塁に転送する際、送球から目を切ってしまう、捕球を損ねて胸に受けて大きな事故に繋がる可能性もある。 外野手が打球を2人で追い、声かけが不十分で部員同士が接触して起こる負傷がある。このような事例の防止には、守備をしている野手全員で声かけをし、次のプレイへの集中力を高めることである。 一定程度の練習を行ったら常にグラウンドを整備する手間を惜しまずやること。

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 地震発生時の建物の崩壊や物の転倒、落下による事故 落雷による事故 Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 圧死、打撲、創傷他 死亡、心停止、熱傷他 	<ul style="list-style-type: none"> 試合を直ちに中断するとともに、観客に対して「自席から立たない、動かない」「自席に座って待機」を場内放送などで呼びかける。 すぐに被害状況を確認、大会本部の指揮が必要であれば球場外またはグラウンドに避難誘導する。避難誘導を行う場合には、落下物からの頭部保護、倒壊物等による転倒防止等必要な呼びかけを行う。 【試合会場から40キロ以内に近づいた時】場内放送を通じて出場チームと観客に「雷注意報が発令されました・雷雲が接近しています」などの注意を呼びかける。 【試合会場から20キロ以内に近づいた時】雷光が近くなった場合、大会本部は直ちに球審に試合中断を命じ、場内放送を通じ速やかに観客に避難を要請する。選手は必ずベンチ内に待機させ、観客はスタンド以外の場所に避難させる。 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

安全確認チェックリスト

【 2 軟式野球 】

競技会名	
期 日	令和 年 月 日 ()
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設・設備・用具	打撃練習	
	ネットの破損箇所はないか。	
	ネットを打撃投手の前、あるいは左右に設置してあるか。	
	ネットと打撃投手の距離は適切か。	
	打撃投手は打撃投手用のヘッドギアを正しく固定し、装着しているか。	
	ピッチングマシンの始動時の調整を複数の部員で行っているか。	
	ピッチングマシンの打ち出される方向に部員がないか。	
	ピッチングマシンを操作する部員が捕手用のヘルメットとマスクを装着しているか。	
	守備練習	
グラウンドは整備されているか。		
活動内容	一般的な事故防止策	
	部員の体力と技量にあった練習を行い、適切な休憩を取り入れているか。	
	守備練習	
	打球を処理してからの送球先を声かけしているか。	
	一定程度の練習を行った後、グラウンドを整備しているか。	
環境条件等	地震発生	
	試合を直ちに中断することを確認したか。	
	観客に対して、場内放送等で呼びかけることを確認したか。	
	球場外または、グラウンドへの避難誘導の経路や方法を確認したか。	
	雷注意報の発令・雷雲発生	
	定期的に気象台等から情報を入手することを確認したか。	
	出場チームと観客に対して、場内放送等で注意を呼びかけることを確認したか。	
試合を中断する基準や方法を確認したか。		
発令アラート対応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)